

そこに 学校があった 休廃校の歴史

昭和小学校 (下)

平成以降に休廃校になった学校を中心に振り返ります。

教員・子ども・保護者の温かい関係

昭和中後期の経済成長と平和は、大人たちも明るくしていく。学校行事への保護者の参加や協力も活発で、河原でのレクリエーションの時などは、保護者が子どもたちのために昼を持ってきて凸凹の河原に敷いてくれた。



子どもも大人も一緒に楽しむ！

平成初期に教員だった方が今も覚えていることがある。ある日、担任をしている2年生の子の祖母からこんな電話をもらった。「九九を早うできるようにしてくれてありがとう」と。この元教員は当時の学級通信の「原版」を今も大切に残留しておられるのだが、当時から30年ほど経ったある日のこと、かつての教え子の一人にこの原版を見せたところ、彼は感動して「先生、それデータ化させて！」と申し出てくれたそうだ。実はこの「かつての教え子」は、あの「九九の子」である。



すべて手書きと切り貼りの原版集

悩んだかいがあった金管バンド

昭和小学校といえば、平成8(1996)年から始まった金管バンドであろう。初めて目にする楽器を前に、子どもたちには

ワクワクと同時に「できるだろうか？」と不安もあった。不安は子どもたちだけではなかった。事業導入前のこと、それ相応の費用が伴うため、役場職員も悩み抜いたという。「子どもたちには良いことだから何とかしてあげたいが・・・」しかし、クリアしなければならないことや、導入後の心配もある。彼らは悩み抜いた末に導入を決めた。それから閉校まで続いた28年の間には「心配が的中」したこともあったが、子どもたちからは「期待以上」の手応えがあった。卒業生たちが言う。「トランペットを吹けるって言える」「クラシックコンサート番組を、つい観てしまう」悩みながら導入を決めてくれた当時の人々に届けたい言葉である。



音を出すのも難しい金管楽器で演奏できるまでに！

全国から注目された先進校

昭和小学校の歴史の中で忘れてはならない先進的な取り組みがあった。「学び合い」である。これは、「知識偏重ではない、思考力・判断力・表現力・協働性などの汎用力」を養うための授業「アクティブ・ラーニング」のひとつで、大学入試制度改革のビジョンと軌を一にする。文部科学省では2012年にその必要性を発表していたが、全国的に認知が遅れ、現場では浸透していなかった。昭和小学校では、これを2013年度からいち早く導入した。今でこそ全国で取り組まれているアクティブ・ラーニングであるが、昭和小学校はまさに先進校だったのである。6年生学級から始めた学び合いは早速成果を上げ、全学年で行う「全校算数」に発展。その秀逸さは全国各地の先進的な教育関係者から注目されるに至った。

数多くの足跡を残し、2025年3月、昭和小学校の歴史はその幕を閉じた。そこにはいつも子どもたちがいた。そこにはいつも人がいた。そこに学校があった。



みんなでわかる！
ひとりも見捨てない学び合い

町のうごき

(7月31日)	人	口	前月比	出生	死亡	転入	転出
男	7,062	-18	男	0	10	9	17
女	7,596	-8	女	4	5	8	15
計	14,658	-26	計	4	15	17	32
世帯数	7,883	-3	(7月中の届出)				
窪川地域 10,475人		大正地域 2,011人		十和地域 2,172人			